

安閑天皇陵古墳

宮内庁は、この古墳を安閑天皇の墓と指定した。安閑天皇は 6 世紀に日本を統治した。江戸時代（1603 年 - 1868 年）中期に、サーサーン朝のガラス碗がここで発見された。ペルシャは 224 年- 651 年の間サーサーン朝に統治されており、ガラス碗と 2012 年の長岡京市（京都府）の古墳で発見されたローマ帝国製ビーズは、品物が早くも 6 世紀に中近東やヨーロッパから日本へ運ばれてきたことを証明している。

15 世紀の間に、古墳の高さと壕の利点を活かし、高屋城の本丸がこの墳丘に築造された。攻めてくる者たちを撃退しやすいように、墳丘は急傾斜となるよう造成された。城の築造によって古墳元来の形は著しく変わりけれど、発掘された埴輪と須恵器によって、6 世紀初期頃に築かれたと考えられる。

安閑天皇陵古墳は高さ 13 メートルで面積は 1.1 ヘクタール弱である。小さな周濠が全周しているが、近代の工事によって大きく変形したため、元々どの程度の規模であったかはわからない。